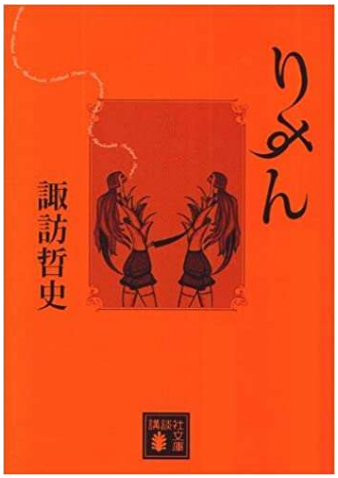
2023 年 6 月

地域公共劇場連携事業

「りすん」クリエイションツアー

企画書

●企画概要



『りすん』(諏訪哲史/講談社文庫刊)

2010 年、名古屋を代表する小劇場[七ツ寺共同スタジオ]のプロデュース公演として上演された『りすん』(あいちトリエンナーレ 2010 共催事業)。デビュー作『アサッテの人』で第 137 回芥川賞を受賞した作家・**諏訪哲史**の同名長編小説を、同じ愛知県出身の**天野天街**（少年王者舘主宰）が舞台作品にした意欲作です。当時名古屋のみの公演でありながら、全国版演劇専門誌「演劇ぶっく」に巻頭特集が組まれるなど、大反響を呼びました。あれから 13 年。プロデュース元の七ツ寺共同スタジオの快諾を得、名古屋小劇場界を牽引するナビロフト、そして少年王者舘と諏訪哲史氏の企画協力のもと、あの名作が蘇ります。今回は、地域の公共劇場と連携し、三重・名古屋・高知の三都市ツアーを開催。2023 年 4 月には、主演キャストとなる兄・妹役オーディションを行いました。全国から 53 名の応募があり、東海地域で活躍する 2 名の俳優が決定。7～8 月には、地域交流プログラムとして各地で天野氏の創作ワークショップを実施予定です。小説と演劇の可能性に挑み、変革し続ける 2 人の異才の共闘をどうぞご覧ください。

●作品紹介

「お兄ちゃん、私たちどうしたら小説の外へ出られるの？」
骨髄癌におかされて長期入院中の少女と、彼女と兄妹同然に育った青年の病室での会話。中国旅行の思い出や少女の母親のこと、ヘンテコな言葉遊び―2 人のやりとりが同じ病室の女性患者によって書かれた物語であったなら……。小説そのものの作為性に果敢に斬り込んだ芥川賞作家・諏訪哲史の実験小説を、天野天街が「エンゲキでしかできないアレヤコレヤにオモイキリ変換」した名作。

（2 点共）撮影：羽鳥直志

●公演概要

【日時・会場】

《三重》2023 年 9 月 17 日(日)・18 日(月祝)　三重県文化会館小ホール

《名古屋》9 月 23 日(土祝)・24 日(日)　千種文化小劇場（ちくさ座）

《高知》9 月 30 日(土)・10 月 1 日(日)　高知県立県民文化ホールオレンジホール舞台上舞台

【キャスト・スタッフ】

出演：加藤玲那*　菅沼翔也（ホーボーズ）*　宮璃アリ（少年王者舘）　*オーディションにて決定

原作：諏訪哲史　『りすん』講談社文庫刊　脚色・演出：天野天街

舞台監督：山中秀一　舞台美術：田岡一遠（マタタキ・マケット）

美術製作・小道具：小森祐美加（マタタキ・マケット）　照明：福井孝子　音響：高橋克司

映像：浜嶋将裕　音楽：夕沈（少年王者舘）　衣装：雪港（少年王者舘）　写真：羽鳥直志

制作：小熊ヒデジ　演出助手：平林ももこ（劇団あおきりみかん）　制作助手：越賀はなこ

企画製作：ナビロフト

協力・スペシャルサンクス：七ツ寺共同スタジオ、二村利之、寂光根隅的父、名古屋演劇教室

助成：（一財）地域創造

主催：《三重》（公財）三重県文化振興事業団　《名古屋》（公財）名古屋市文化振興事業団

《高知》高知県立県民文化ホール共同企業体

【地域交流プログラム】

少年王者舘主宰の天野天街を講師に迎え、創作ワークショップを開催。天野の盟友で俳優の小熊ヒデジもアシスタントに加わり、唯一無二の天野ワールドの創作過程を体験できるワークショップです。

《三重》7 月 23 日（日）14：00～17：00　三重県文化会館レセプションルーム　対象：公募

《名古屋》7 月 27 日（木）19：00～22：00　演劇練習館アクテノン　対象：公募

《高知》8 月 8 日（火）午後　高知県立県民文化ホール　対象：県内の中学・高校演劇部

【稽古予定】

8 月 3 日（木）・4 日（金）	18：30～22：00
8 月 5 日（土）	15：30～22：00
8 月 9 日（水）・10 日（木）	18：30～22：00
8 月 11 日（金祝）・12 日（土）	15：30～22：00
8 月 16 日（水）～18 日（金）	18：30～22：00
8 月 19 日（土）・20 日（日）	15：30～22：00
8 月 23 日（水）～25 日（金）	18：30～22：00
8 月 26 日（土）・27 日（日）	15：30～22：00
8 月 29 日（火）～9 月 3 日（日）	15：30～22：00
9 月 5 日（火）～10 日（日）	15：30～22：00

*練習場所はいずれも演劇練習館アクテノン（名古屋）です

●プロフィール

脚色・演出　【天野　天街（あまの　てんがい）】
劇作家、演出家、少年王者舘主宰。1960 年愛知県一宮市生まれ。1982 年少年王者舘旗揚げ、名古屋を拠点として全国的に活躍。演劇、ダンス、人形劇、コンサート、ファッションショー等幅広いジャンルの舞台演出を多数手がける傍ら、漫画執筆、デザイン・ワーク、エッセイ等の分野でも活躍。1998 年より演劇ユニット《KUDAN Project》を始動、海外公演を開始する。主な演出作品に『御姉妹』『高丘親王航海記』『百人芝居◎真夜中の弥次さん喜多さん』、映画作品に『トワイライツ』がある。

原作　【諏訪　哲史（すわ　てつし）】
小説家。1969 年名古屋市生まれ。名古屋西高校、國學院大學文学部哲学科卒業。独文学者種村季弘に師事。2007 年に小説「アサッテの人」で群像新人文学賞・芥川賞を受賞。他に小説『りすん』『ロンバルディア遠景』『領土』『岩塩の女王』、エッセー集に『スワ氏文集（もんじゅう）』『うたかたの日々』『スットン経』、文学批評集に『偏愛蔵書室』『紋章と時間』がある。東海学園大学人文学部客員教授。2022 年から名古屋駅の名鉄カルチャースクールで毎月第 3 土曜日に文学講座（常時入会可）を開講中。

妹役　【加藤　玲那（かとう　れいな）】
ナレーター、パーソナリティ、役者、書道家。1997 年生まれ。愛知県在住。フリーランス。高校演劇部を経て、大学より名古屋を拠点に演劇を始める。現在は主に番組/動画ナレーションやテレビ/ラジオの MC として活動中。

【WEB】https://substratecomcom.wixsite.com/161reina
【Twitter】@161reina　【Instagram】Bob_reiK

兄役　【菅沼　翔也（すがぬま　しょうや）】
ホーボーズ所属。愛知県岡崎市出身。名古屋大学在学中よりタレント活動を始め、名古屋おもてなし武将隊 2 代目豊臣秀吉役を約 3 年間務めた後、舞台やドラマ、映画の分野で活動している。近年では大河ドラマ「どうする家康」第 1 話、名古屋市短編映画「五時のメロディ」等に出演。ミュージシャンとしてもモーレツに活動中。

【WEB】https://www.suganumashoya.com/
【Twitter】@ringoss　【Instagram】shoya_suganuma

【宮璃　アリ（みやり　あり）】
少年王者舘所属。三重県四日市市在住。2002 年の四日市市民演劇出演を機に演劇活動をはじめる。現在は舞台だけではなく、NHK 朝の連続テレビ小説「わろてんか」等 TV ドラマやラジオドラマ、映画等の映像作品への出演や地元コミュニティラジオのパーソナリティ、演劇や音楽ライブの企画制作など多方面で活動している。

【Facebook】https://www.facebook.com/ari.miyari
【Twitter】@gariari　【Instagram】@ari.3333
【ブログ】https://ameblo.jp/aritokoodori/

●初演時劇評

七ツ寺プロデュース「りすん」

安住恭子の 舞台プリズム

諏訪哲史の小説を天野天街が舞台化した話題作「りすん」（天野の脚本・演出）。「読む」ことが「聴く」ことに直結するような諏訪の実験的小説を、天野がさらにどのように演劇的に変容するのかという興味で見た。けれどもそれは、いかに忠実に小説を演劇化するかに力を注ぐ舞台だった。

原作の世界 魅力的に伝える

白血病で死期の迫っている妹とその兄の話。二人は本当の兄妹ではないが、幼いときから兄妹同然に育ち、濃密な愛情で結ばれている。奇妙な言葉遊びなど、彼ら独自のルールによる二人だけの世界を持っているからだ。死を意識する妹は残された時間を、その兄との世界だけで生きようとする。兄が泊まり込む真夜中、執拗にそれらの遊びに熱中するのだ。

そしてそれらのありさまは、隣のベッドの患者によって聴かれ、録音され、小説として記録されていたというつくり。舞台は小説のその仕掛けを生かして、冒頭から入れ子構造であることを示し、録音の巻き戻しを思わせる繰り返しなどでメタ的世界を作っていく。諏訪の言葉遊びを天野的に膨らませたり、ダンスシーンなど二人の世界をより生々しく広げた。

黒宮万理と時田和典がそれらの演出を消化し、諏訪の世界を魅力的に伝えたと思う。聴覚だけでなく視覚や触覚にまで広げたわけで、それはまさに小説のまっとうな立体化だった。だが一方でそれらの手法は天野の手の内だっただけに、新鮮味が薄かったのも事実。また十数名の出演者による〈気配〉の演出の効果も弱かったように思う。

（10月21日、名古屋・七ツ寺共同スタジオ）

「あいちトリエンナーレ2010」の共催企画（羽鳥直志氏撮影）

▲中日新聞・夕刊（2010年11月6日付）

演劇 りすん

ほとばしるせりふの官能

芥川賞作家・諏訪哲史が会話だけでつづった小説を少年王者館の天野天街が脚色・演出した「りすん」＝写真、羽鳥直志氏撮影＝は切なくて清澄、甘くて官能的。能楽の様式美、新劇の深み、新派の人情味、アングラ演劇のエネルギーを弾ませて、諏訪文学の謎めいた魅力に迫る感銘深い舞台だった。

とある病室。重病の妹（黒宮万理）に兄（時田和典）が付き添っている。中国旅行、父母の微妙な関係、平凡な日常……。話は尽きない。兄妹はある日、同室の患者が2人の会話を録音し、小説にしようと創作ノートを作っているのに気づく。

現実と虚構の二元論に立ち、掛け言葉を仕組んだ複雑なパズルを、色彩豊かな夢幻世界で展開するのが天野作品の特色だ。今回はダンスや映像を抑制し、極私的な会話劇を通して死生観や演劇論を繰り広げるが、当然、一筋縄では行かない。

自分たちは〝盗聴小説〟の登場人物ではないのか、と疑う兄妹。血のつながりが薄い2人には恋心もある。生と死のせめぎ合いの中でエロスが匂い立つ。床面舞台の三方を囲む客席で病室をのぞき見る観客は、いつしか盗聴の共犯者になったような錯覚にも陥るのだ。

膨大なせりふをてらいなく語り続ける黒宮と時田は「純粋な魂」の表出に徹して清新。火田詮子のやるせなく哀しい祖母が味わい深く、客席最前列に座った10人余の俳優が言葉の反復や重複、擬音の発声を受け持つ手法も奏功した。

「いきたい」と、妹が話す。思い出の地に「行きたい」のか、希望の未来を「生きたい」のか、呪縛のない来世へ「逝きたい」のか。深遠な舞台を象徴するせりふが胸に熱く迫ってきた。10月21～25日・七ツ寺共同スタジオ。

（桐山健一）

▲朝日新聞・夕刊（2010年11月4日）

【本事業に関するご連絡先】三重県文化会館　事業課　堤　佳奈
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234
Tel. 059-233-1100 ／ Fax. 059-233-1106 ／ E-mail. tsutsumi@center-mie.or.jp